

21年産予測全国指数 **96** 新潟県は **やや不良**

日照時間過去最短で水不足は回避

小雪の影響で長梅雨後の水管理に要注意!!

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

「日照時間最短に」8月1日付けの新潟日報朝刊の31面に7月の日照時間が極めて短く、日本海側では

平年の半分程度だったという記事が載っていました。7月に例年のような好天

続きになれば、各地で水不足がおきてしまうことを心配していたのですが見事に裏切られてしまいました

自然界は人間の思うようにはいかないことを改めて思い知らされた感じがします。湿度についての記事はありませんでしたが、ヘビース

モーカーの私は煙草の火が中々点かず、しょつちゅうイライラしていましたので、湿度も結構高かったのだ

でしょう。日照時間が半分ならば、稲をはじめ植物の炭酸同化作用が半分になってしまっ

ては大変ですが、そこは自然界はうまく出来ていて、少ない日照時間を最大限に活用して成長してくれてい

に繁茂しているように見えます。しかし、ナスやオクラ等の夏野菜はその影響だと思われませんが収量、品質共に劣っているようです。一方、稲の方ですが比較的日照不足には強かったようです。

昔から刈羽柏崎地域は早揚米地域といわれてきましたが、4月末田植えの早期

越路早生は7月20日前後に収穫、作付けが20%を超すこしいぶきも7月末には

は出穂しています。5月10日過ぎに植えたコシヒカリ

りさえ、はしりが見え始めていますので、生育ステージ

は大きく狂っていないようですし、今のところは徒長もしていません。8月以降の天候がどうなるのか予測できませんが、

今後私たちができることは、出来るだけ長く飽水管理を続けることくらいでしょう。そうなるに今から心配してもどうにもならない

入ってしまった。草の密度からすれば収量にはまった影響がない程度ですが、来

年以降に種を残したくないために、時間を見つけては除草に入っていました。その

ため、暗渠を開けて落水後一カ月を経ても田面表層の

とろとろ層はそのまま、まさにクリミーな状態で今後の天候が頼りです。

地震の後遺症で整地のために表土を剥いだところ3箇所から蓮が芽を出し、

大きく葉をつけるまでに成長しました。少なくとも百年以上、あるいはもつと以前の種

取りがすんだらビオトープに移植してやろうと思っております。有機の稲作をおこなっていることで、さまざまな生き物との出会いを



しませてもらっています。今、世の中の関心は8月末の衆議院選挙に集まっています。「自民党をぶっ壊す」と宣言して郵政の民主

化を訴え、小泉流構造改革路線を強行した小泉内閣以降、日本の政治・経済路線

は大きく変わったと思いません。自民党も半壊したかもしれません

が、私たち国民の生活が最も大きな打撃を受けてしまいました。現在の生活困窮の直接的なきつ

かけは「リーマン・ショック」によるものかも知れませんが、それ以前に原因

となる種は播かれてしまった。いたと見るべきでしょう。大企業が毎年増益、増収を

している中で何等のセーフティーネットなしで低賃金の非雇用労働者が増大し、後期高齢者医療制度にみられるように福祉がどん

私たちが自身が私たちの生活の安全・安心と将来を託せる政党と政治家をしつかり見極めることが求められているのでしよう。今回の衆議院選挙は現状の改革と、そして将来の政治の流れを私たちの手に取り戻す絶好のチャンスです。1票の重みをしっかりと行使しようではありませんか。

(内山常蔵記)

収穫シーズ前に確認を

調製時の異物混入の防止

石 粉 ゴミ

検査袋は8月下旬頃から順次お届けいたします

入庫時の玄米水分量

うるち玄米 16.0%以下

醸造用玄米 15.5%以下

水分過多の場合、検査はできません

自然の
摂理を利用

コナギを田んぼで発見しよう!

黒い斑点」の葉を見つけたら、ご連絡ください!



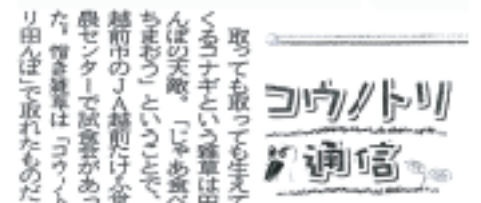
コナギの枯れた一群

今年も有機圃場で「コナギ」が発生し、大勢の生産者が苦しめられています。コナギは冬の間に播種されて翌年の春に発芽しますが、嫌気性植物で還元状態(無酸素)になるとよく発芽します。除草剤の抵抗性がないために退治は容易ですが、最近では抵抗性を示すコナギが出現しています。

コナギ退治を「生物利用」の方法で環境にやさしく、全国で活用できる方法はないかと、らでいつしゅぼーや(榎上甲泰三氏に相談をしていました。今年同社の圃場巡回でコナギの一群が枯れているものを発見しました。調べてみると細菌性の病気に枯れたものでした。この細菌を培養して散布すれば「生物利用」によるコナギ退治ができるのではないかと考えましたが、この細菌は乾燥すると死滅することとで実用は難しいようです。

ところがコナギの群落の中で「黒い斑点」のある葉が、滅多に発見されませんが発生します。これは「カビ」におかされた状態でこのカビの生えた個体を専門家に分析してもらいます。これを培養してコナギに散布すれば退治できる可能性があるそうです。

皆様の田んぼでコナギに黒い斑点を見つけたらご連絡ください。もしかすると、有機栽培の救世主になるかもしれません。ご協力お願いします。



取っても取っても生えてくるコナギという雑草は田んぼの天敵。「じゃああえちまわつ」といって、越前市のJA越前たけな産農センターで試食会があった。雑草は「コナトリ」田んぼで取れたものだ。

天がら、かま揚げ、いたれ物煮ひたし、おひたし。JA女性部の生産指導員が手際よく料理してくれた。「どうですか?」意外や意外、全席うまい。クセがない。

「私も田んぼの泥の中であんな雑草なんて...」半信半疑で料理したけれど、いけるぞ!」

白山地区で農産物生産者JA女性部、試食会「おまはるか」にお客さんに出してみよう。お金の事が甲(いぼ)で雑草を取り、それを天ぷらにして食べれば、味は結構!」

コナトリ田んぼで取れた雑草コナギ、これが意外にうまい。

支局では、コナギとあわせて生えていたせりも、自宅から徒歩15分程度に育つてみた。翌朝、取れ美味とはいかないけれど、十分食べられる味だった。

無農薬栽培でなければ、田んぼの雑草を減べるといふ発想にはならない。天敵を食に定めてしまおう(努力)を「コナトリ」呼び戻す農

法」にはある。このコナギ、実は万葉集の集巻にも採りあげられていた。昔は高麗として栽培されていたようだ。

支局生協は、日本産の食文化に根ざすことから編み上げた。今月から常駐することをになりました。よろしくお願ひします。

(コナトリ支局・堀家啓)

月刊現代農業(2005年5月号)より抜粋

アカがなくて、うまい
コナギ

田んぼの草を食べてやろう!

コナギという雑草があります。無農薬栽培ではもっとも問題になる雑草で、冬季湛水水田に多く見られます。その姿を観察していると鮮やかな緑の葉っぱがチンゲン菜のように見えてきて、「あんかけ野菜炒めでいけるかもしれない」などと妙な妄想を呼び起こすようになってきました。

お浸し、空揚げ、ゴマあえなどに料理され、見ばえ良く小皿に盛られたコナギを試食してみました。結果、空揚げは完食され、お浸しは半分、ゴマあえは7割ほど残りましたから、コナギは空揚げで味が引き立つようです。

昨年、雑草に詳しい先生からいろいろと教えていただく機会がありました。その先生がおっしゃるには「ベトナムでは田んぼの草の大部分が食材に供されている」とのことです。

今まで「ゴミ」同様の扱いをされてきた田んぼの雑草ですが、考え方によっては何らかの「資源」として活用できる可能性のあるわけで、私たちの身の回りには意外なところで「お宝」が眠っているかもしれません。

コナギの天ぷら

<http://www.rurahetor.jp.gn.200505/konagihm>

商経アドバイス(2009年7月21日)より

有機JAS規格 紙マルチは使用可能

有機栽培において暫定的に使用が認められていた紙マルチとシールドテープが、JAS規格の一般管理として恒常的に使用が可能となる。先ごろ開催された農林物資規格調査会総会(JAS調査会総会)で決まった。紙マルチとシールドテープは、現行附則で今年10月26日までの間の使用が認められており、その後の扱いについて協議が続けられてきた。紙マルチについてはJAS調査会部会の審議で、委員から「使用する古紙の限定条件を規定するべきではないか」との意見が出され、総会で再度検討することとなった。総会では特に意見が出されなかった。そのため、「製造過程において科学的に合成された物質が添加されていないものに限る」という条件のみでの設定になった。

福井新聞(2009年7月1日)